

大和川の 動物植物の



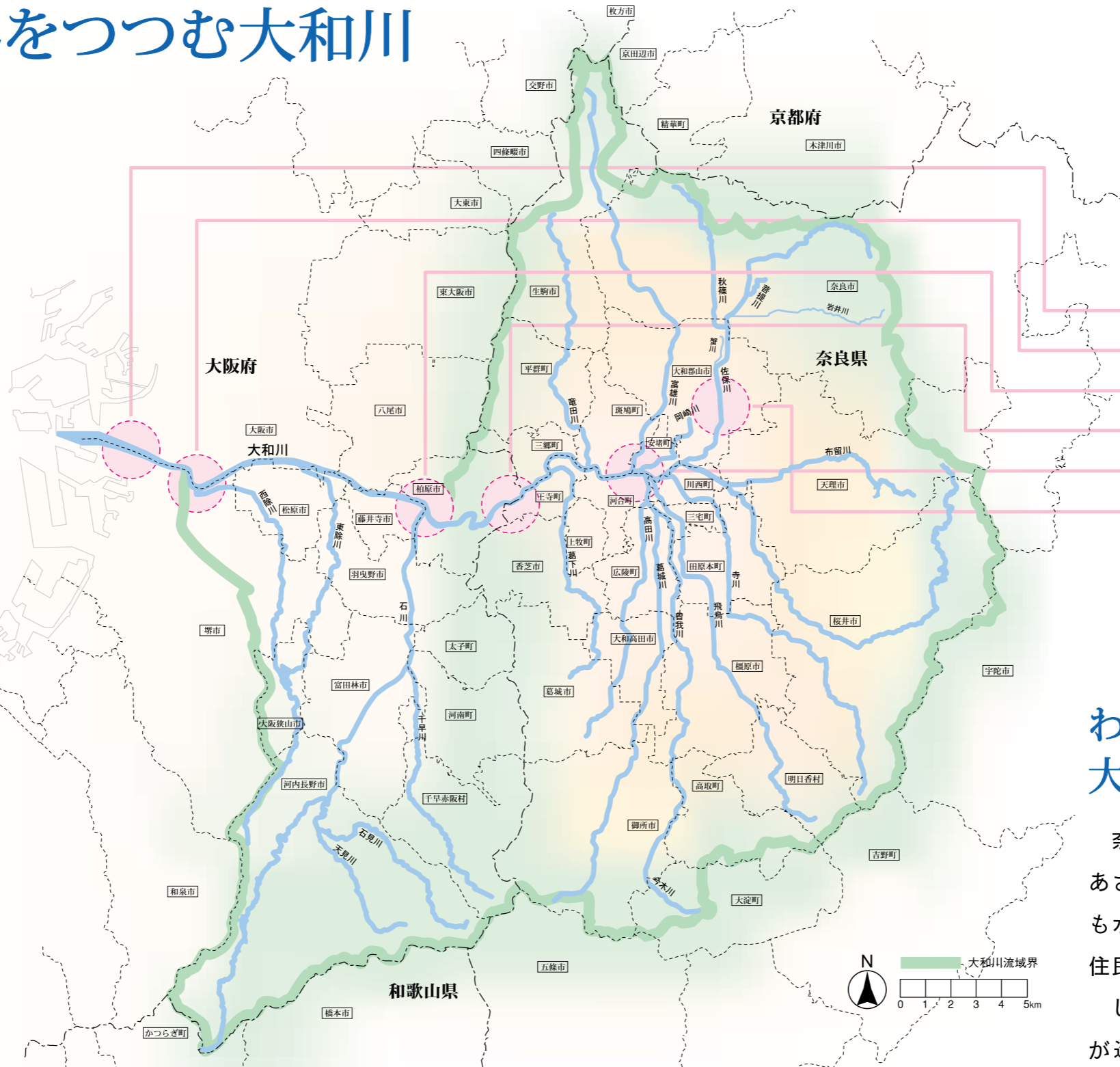
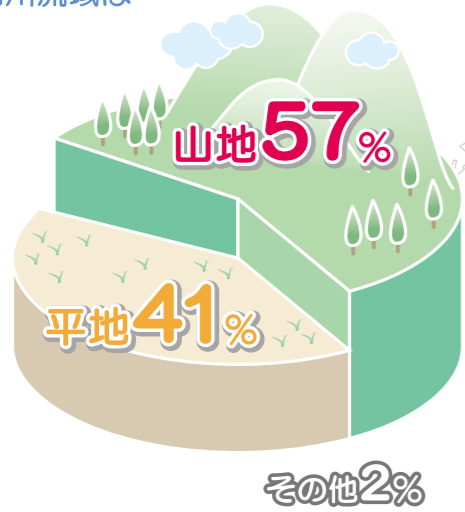
215万人の暮らしをつつむ大和川

大和川は奈良県の笠置山地を源として、生駒山地と金剛山地の間を通過して大阪平野に流れています。

大和川の長さは68キロメートル、支流も多く流域には38の市町村があり、215万人が生活している一級河川です。

上流は「生きた化石」といわれるムカシトンボも見られる清らかな水ですが、中流は川の底が浅くて砂が多く、ところどころに深い淵があります。

大和川流域は…



目次

大和川のすがた	01
大和川の水環境	03
6 周辺の環境	
阪堺大橋周辺	05
JR阪和線鉄橋周辺	07
石川合流部周辺	09
亀の瀬橋周辺	11
御幸大橋周辺	13
井筒橋周辺	15
大和川にすむ生き物を公開!!	17

わたしたちの生活排水が大和川を汚しています

奈良と大阪にまたがる大和川は、おじいさん、おばあさんが子どもだった昭和の初めころは、中下流でも水あそびやアユ釣りができる清らかな川で、流域住民の遊びとくつろぎの場でした。

しかし昭和40年代にはいってからは、流域の都市化が進み人口が急激に増えたため、大和川の汚濁が進み全国の一級河川の中でも汚い川になってしまいました。

その後、下水道の整備などにより、大和川の汚れは改善してきました。

でも、大和川の汚れは流域住民の生活排水が8割を占め、他の河川よりも流域の降雨量が少ないため、汚れがあまり薄まらないことも原因です。水の量が少ない冬期は汚れがひどくなる傾向にあります。

大和川の水質(BOD値)の変化

※BODとは微生物が水をきれいにするために必要な酸素の量。この数値が高いとよごれているとわかります。
※大和川の水質はBOD75%値の本川8地点平均

昭和50 55 60 平成2 7 12 13 14 15 16 17 18 19 (年)

年間降雨量

昭和46年～平成12年の年間降雨量の平均値
※1 出典「日本の水資源」国土交通省水資源部

(mm/年)
大和川(王寺) 1,273
全国平均 1,718

大和川を汚す原因

(BOD汚濁排出負荷量の割合)(平成14年)

畜産から出るよごれ 6.8%
工場などから出るよごれ 7.2%
自然から出るよごれ 1.9%
家から出るよごれ(生活排水) 84.1%

大和川の月別水質(BOD)の変化

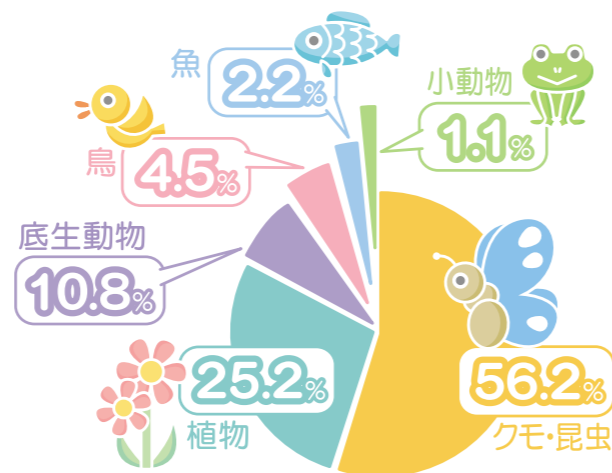
BOD値(mg/L)

平成5～9年の平均値
平成10～14年の平均値
平成15～19年の平均値

よごれている
きれい

いろいろな生き物が多い大和川

中流から下流にかけて、魚：52種、植物：592種、鳥：106種、ネズミ・ヘビ・カエル等の小動物：25種、クモ・昆虫：1321種、底生動物：254種の合計2350種のさまざまな生き物がすんでいます。



はんかいおおはししゅうへん 阪堺大橋周辺

淡水と海水が混ざる汽水域。川幅は広いが、ほとんどがコンクリートで固めた人工護岸のため、河原はありません。

周辺は工場や住宅地で、堤防を大きくして阪神高速道路を通す計画が進められています。散歩をする人が多くいます。



河口から約2.5キロの地点
下流をのぞむ

- カイツブリ、カワウ、ウミネコなど水鳥が多い。
- 汽水・海水魚であるメナダ、ボラなどが多く生息。

いしかわごうりゅうぶしゅうへん 石川合流部周辺

柏原堰堤から大和川の上流になります。

植物は種類が多く、高茎草本群落や砂礫地があり、広々とした河原では多くの人がつりや水遊びなどを行っています。



河口から約18.2キロの地点
下流をのぞむ

- ギンブナ・モツゴやオイカワなど純淡水魚が多く、汽水・海水魚はみられない。
- カワムツなど中流～上流を好む種も多い。
- 柏原えんていを遡しようとするアユもみられる。
- カヤネズミがいる。
- イカルチドリやオオヨシキリが多い。
- 草地にすむ昆虫類が多い。

はんわせんてつきょうしゅうへん JR阪和線鉄橋周辺

河原が広く、水の流はゆるやかで川底は浅いが、水質はよくありません。高水敷は公園や裸地が多いため、散歩する人が多くいます。

- ギンブナ・モツゴやオイカワなどの純淡水魚とともに、メナダ、ボラなどの汽水・海水魚もみられる。
- カイツブリ類はみられなくなる。サギ・カモ類が多い。



河口から約5.8キロの地点
下流をのぞむ

大和川にすんでいるさまざまな生き物

魚

大和川は、近年、水質が徐々に改善し、多くの種類の魚がみられるようになりました。また、平成19年のアユ遡上調査では、アユの産卵場所も確認されました。

植物

水につかる浅瀬や湿ったところが少ないため、アシ原など水際の植物群落もあまりみられません。セイタカヨシが多いのが特徴です。

鳥

河辺にはサギ類がいるほか、河口部ではカイツブリやカモメのなかまがいます。また、人の住むところにはドバトやカラスが多くみられます。

小動物(両生類)

河川敷の浅い水たまり(止水域)などではマガエルが、深い水たまりには外来種のウシガエルがすんでいます。

底生動物

大和川にすむ底生動物にはスジエビ・テナガエビ・アメンボなどがいます。水が汚れていることを示すイトミミズ類やユスリカ類などもあります。これは大和川のほとんどが砂底で礫が少なく変化のない水底であることが影響しています。

小動物(は虫類)

在来種のイシガメ・クサガメが生息していますが、外来種のミシシippieアカミミガメが全域で多くみられます。

小動物(ほ乳類)

水辺を好むイタチのなかまが大和川全域で多く、コウベモグラやアカネズミ・カヤネズミがすんでいます。

クモ・昆虫

コガネムシやスズムシ・マツムシ・キリギリスの鳴く虫など、多くの昆虫がすんでいます。

かめせはししゅうへん 亀の瀬橋周辺

山が近く川幅が狭い渓谷で、瀬と淵が連続しているため平坦な陸地はありません。

亀の瀬と呼ばれる渓谷地区では、大規模な地すべりの対策が地中深いところで行なわれています。



河口から約24.0キロの地点
上流をのぞむ

- 流速が速く礫質の場所に生息する底生動物がいた。
- 樹林性の鳥類や昆虫類が多い。

いづつはししゅうへん 井筒橋周辺

川幅が狭く比較的生物の種類が少ないが、つりをする人がみられます。



井筒橋から上流をのぞむ

- 生物の種類が少ない。
- 水域性の鳥類が種類も数も少なくない。

みゆきおおはししゅうへん 御幸大橋周辺

中流域の河川の形をしているところで、堤内には水田や池などがあり草が広がっているため、大和川でもっとも多くの種類の鳥類がいます。

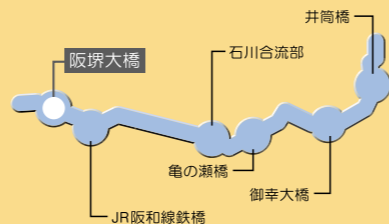
周辺は住宅地や田畑が多く、佐保川や曾我川が流れこんでいます。

- 鳥類の種類がもっとも多く、多様である。
- 草地性の種や水田・池沼でみられる昆虫が多い。



河口から約33.0キロの地点
下流をのぞむ

はんかいおおはし しゅうへん 阪堺大橋周辺



鳥

ハジロカイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、ウミネコ、コアジサシなどの水鳥が多くみられます。



カワウ

下流・大きい川の河口部でみられるが近年増えている



キンクロハジロ

湖沼や大きい川の上流にすみ、9月～翌4月までみられる



カンムリカイツブリ

10月～翌4月までみられる冬鳥で、もぐって魚をとる

魚

汽水域であるため、メナダ、セズジボラ、スズキ、マハゼなどの汽水・海水魚が多くみられます。また、流れがゆるやかであるため、ギンブナ、モツゴなどの止水域からゆるやかな流れを好む純淡水魚も多くみられます。カダヤシ、ブルーギルなどの特定外来種もいます。



スズキ

季節、成長によってすみかを変え、春と秋に川に入る



カダヤシ

ボウフラをよく食べることからこの名がつく



ブルーギル

北米が原産の外来魚。各地で大繁殖している



モツゴ

中・下流の流れがゆるやかなところにすみ



はんかいおおはし
阪堺大橋

底生動物

ユスリカなどの昆虫類やミズミズ科、イトミミズ科などのミズミズ類が多くいます。

これらは比較的河床がこまかい砂泥から泥底で流れのゆるい場所にみられ、汚い水質にも強い種類です。



オオイヌタデ

水辺にはえ、晩夏～秋に花が咲く



カナムグラ

帰化植物でホップのなかま。山すそや水辺に群生する



チガヤ

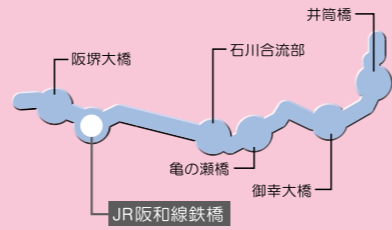
田んぼのあぜ道にはえ、5月に白い穂を出す

植物



セイタカヨシやカナムグラが生態護岸の上に見られ、水際にオオイヌタデが、堤防の土手にはセイバンモロコシがみられます。

はんわせんてっきょうしゅうへん JR 阪和線鉄橋周辺



アカメヤナギ

水辺にはえ、春に花が咲き、5月に白い綿毛を飛ばす



アレチウリ

ウリのなかまで、岸辺一面をおおうようにはえる特定外来種です。



おもに土手には定期的に草刈りされる場所を好むチガヤやセイバンモロコシの群落がみられます。

また、河川敷公園のある平らな場所などでメヒシバ、エノコログサのなかま、ヨモギなどが多くみられます。水面と河川敷公園のある平らな場所の間にはアカメヤナギなどの樹木が点在しているほか、クズ、アレチウリ、カナムグラ、ヤブガラシといったツル植物やセイタカヨシが、水際にはおもに湿った場所を好むオオイヌタデ、オオクサキビがみられます。



ヨモギ

あぜや草地に群生し、夏～秋に花が咲く



鳥

水鳥であるカルガモ、ユリカモメ、セグロカモメ、砂地や砂礫地を利用するコチドリ、シロチドリ、川にすむカワセミ、浅い水辺で餌をとるセグロセキレイ、草原にすむビタキ、林にすむメジロなどがいます。



ユリカモメ

海岸や河口にすみ、9月～翌5月ごろみられる



カワセミ

湖・池・川の水辺にすみ、一年中みられる



メジロ

常緑広葉樹林にすみ、特に西南日本に多く分布

クモ・昆虫

水際になだらかな地形があるため、コムズギワカメムシ、キイロセマルコムズギワゴミムシなどがみられます。

また、ヤマトヒメメダカカッコウムシ、ミナミカマバエなど、水際の植物に頼って生活する種もいます。

汚れた水たまりでもみられるハイイロゲンゴロウや、芝生の上でよくみられるという帰化種のミスジキイロテントウのほか、河川敷や草地で普通にみられる種が多くすんでいます。



トノサマガエルや水深のある止水域を好むウシガエル、浅い池沼やゆるやかな川にすむクサガメ、川近くの湿地にすむ外来種のミシシッピーアカミガメが見られます。

開けた場所を好むシマヘビ、草地にすむコウベモグラ・アカネズミ、高茎の草地にすむカヤネズミ、水辺を好むイタチなどがすんでいます。



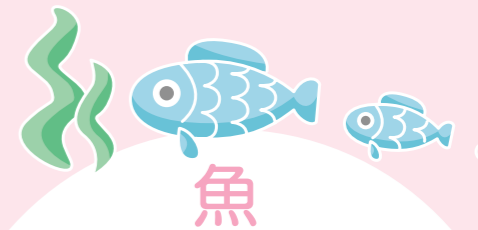
トノサマガエル

池や川のほか水田でもよくみられ、オス・メで体色が異なる

底生動物

ユスリカ科の昆虫類、ミズミズ科、イトミズ科などのミズミズ類が中心です。これらの種は川底がこまかい砂泥から泥底の流れのゆるい場所にすむ種です。汚い水にも強い種類のコカゲロウ属がいました。

また、水中に植物のある流れのゆるいところを好むアオモンイトトンボ、浅いゆるい流れの環境でみられるコフキトンボ、シオカラトンボなどのトンボ類、ヒメモノアラガイなどもあります。



ボラ

早春に汽水域に集まり4歳まで海と川の間を回遊



マハゼ

汽水域や内湾の泥底部にすみ底生動物が主食



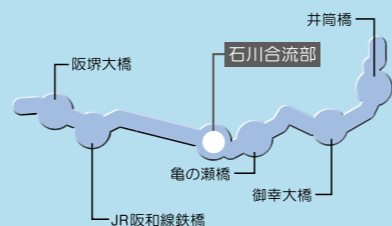
カマツカ

中・下流の砂れき底にすみ5～6月ごろ産卵する

潮止堰の上流であるため、淡水域になっていますが、メナダ、ボラ、マハゼなど一部の汽水魚はここでもみられます。全体的に川の流れがゆるやかなので、モツゴ、ギンブナ、メダカなどの止水域からゆるやかな流れを好む純淡水魚が多くいます。一部の流れの速い瀬では、オイカワ、カマツカなどの流水域を好む純淡水魚もみられます。カダヤシ、ブルーギルなどの特定外来種もみられます。

いし かわ ごう りゅう ぶ しゅう へん

石川合流部周辺



小動物 (両生類、は虫類、ほ乳類)

河川敷の水たまりなどを好むヌマガエル、水深がある止水域を好むウシガエル、浅い池沼やゆるやかな川にすむクサガメ、川近くの湿地にすむ外来種のミシシッピーアカミミガメがみられます。

堤・草原・やぶなどにすむカナヘビ、人家の近い水辺に多くみられるアブラコウモリ、草地にすむコウベモグラ・アカネズミ、高茎の草地にすむカヤネズミ、水辺を好むイタチなどがいます。



カナヘビ

やぶや草むら、人家の庭でもみられるトカゲのなかま



ヌマガエル

繁殖期は5～8月で水田などの浅い止水域に産卵



石川

底生動物

川底が比較的細かい砂泥～泥で、流れのゆるい場所にみられるユスリカ科やコカゲロウ属などの昆虫類、ミズミズ科、イトミズ科などのミズミズ類が多くいます。

また、水中に植物のある流れのゆるい環境にみられるクロイトトンボ、ギンヤンマ、植物の多い浅い湿地や水田でみられるモートンイトトンボ、砂泥から砂礫質の流水環境でみられるコシボソヤンマ、浅いゆるい流れの環境でみられるシオカラトンボなど、ほかの区間と比較してトンボ類が多いのが特徴です。これは水草や砂礫底などさまざまな環境があるためです。

魚

堰の上流でもあるためここから上流は汽水の影響がなくなり、汽水・海水魚がみられなくなります。

この区間ではアユ、カワムツなど中上流を好む種もいます。

オオクチバス、ブルーギルなどの特定外来種のほか、汚い水に強いコイなどもいます。



オオクチバス

北米原産の外来魚で止水域の水草周辺を好む



アユ

中流域にすみ、なわばりを作って日中に活動する

鳥

水鳥のゴイサギ、オナガガモ、コアジサシ、広い川原や農耕地などを生息範囲の一部とするハヤブサも確認されています。

開けた草地などで昆虫をとらえて食べるコシアカツバメ、タヒバリ、ノビタキ、ヨシなどの背の高い植物群落を広い範囲で必要とするオオヨシキリもみられます。



ゴイサギ

夕方から川や池で魚をとる夜行性のサギのなかま



オオヨシキリ

湿地の草むらにすみ5、6月さかんにさえずる



オナガガモ

全国に分布し、湖沼・大きな河川でみられる



ノビタキ

草原鳥で雪が増えると川べりによく現れる

植物

オオカナダモ、イトモというような水中で生育する種、ミゾコウジュ、タニソバ、ヒメガマなどの定期的な水につかる水際に生育する種、セキショウといった水路の岩場などに生育する種、ミヤコグサ、ツルボ、クサボケなどの定期的な草刈りがされる明るい草地でみられる種などが確認されています。



ミヤコグサ

田んぼのあぜ道などにはえる。春～初夏



ツルボ

田んぼのあぜ道などにはえる。6月ごろ花が咲く

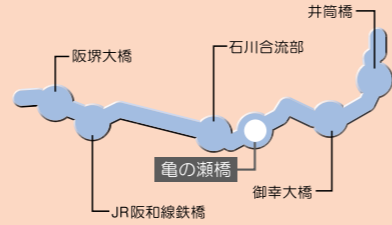


クモ・昆虫

水際になだらかな地形があるため、ハマベハサミムシやヨツモンミズギワコメツキがみられ、そのような湿地にイネ科植物の群落が成立した場合にみられるババヒメテントウがいます。

また、草地在広く分布しているため、草間にアシナガゴモ科のクモ類が巣を張っているほか、カモガヤなどに寄生するフタスジメクラガメや、イネ科植物に寄生するヒゲナガカメムシなどのカメムシ類やバッタ類も多くみられます。

かめ せ ばし しゅう へん 亀の瀬橋周辺



魚



勾配がややきつく流れが速くなっているため、オイカワ、カマツカなどの流水域を好む純淡水魚やカワヨシノボリ、カワムツなど中上流域を好む純淡水魚や、コイ、モツゴなど止水からゆるやかな流れを好む純淡水魚も多くみられます。

外来魚は他の区間に比べて少ないです。



カワムツ
淵の流れのゆるやかなところでみられる



コイ
中・下流の淵にすみ底生動物などを食べる



鳥

キセキレイ、ハクセキレイなど浅い水辺に飛ぶ小さな虫を食べる種、モズ、シジュウカラ、アオジなど樹林性の鳥類も多くいます。



シジュウカラ
森だけでなく、林や市街地でもみられる



アオジ
落葉広葉樹林の鳥で秋に南へ渡る



キセキレイ
清流のゆたかな川べりにすみ

植物



ヌルデ、ハゼ、ウツギ、ヨウシュヤマゴボウなどの崩壊地に特徴的な種がみられます。カワラハシノキ、ネコヤナギなどの河畔林を特徴づける種、コナラ、アカマツ、ノガリヤス、ノコンギクといった森林を特徴づける種などがみられます。



ノコンギク
一般的に「野菊」と呼ばれる。晩夏～秋に咲く



ヨウシュヤマゴボウ
荒地や山地でみられ、春～秋に紫の花が咲く



ネコヤナギ
川岸にはえ、早春に白い毛に覆われた花が咲く



小動物 (両生類、は虫類、ほ乳類)

低い木や草の上で生活するアマガエル、河川敷の水たまりなどを好むヌマガエル、浅い池沼やゆるやかな川にすむクサガメ、川近くの湿地にすむ外来種のミシシッピーアカミミガメがいます。

やぶなどにすむカナヘビ、水辺を好むイタチなどがいます。



ニホンイタチ
山間部や自然の多い平野部の水辺や田畑にくらす



ミシシッピーアカミミガメ
中・下流域にすみ5月～8月繁殖する

クモ・昆虫



河川と山が接しているため、クモ類では樹上に巣を張るゴミグモやヤマトゴミグモ、ジョロウグモなどがみられます。また、カトリヤンマのような樹林性のトンボや樹林に生息するモリチャバネゴキブリ、エダナナフシ、ヒラタクワガタなど、アブラゼミ、ミンミンゼミ、ツクツクボウシ、ニイニイゼミ、クロアゲハ、ルリタテハなどもあります。



ニイニイゼミ
初夏から8月の半ばにみられ鳴き声は小さい

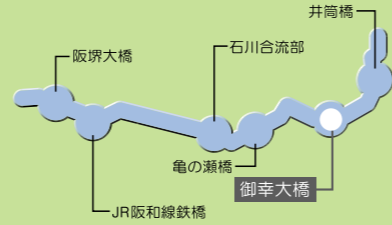
底生動物

河床が比較的こまかい砂泥から泥底で、流れのゆるい場所にみられる、ユスリカの昆虫類や、ミズミズシ科、イトミズシ科などのミズシ類が多くみられました。

水中に植物のある流れのゆるい環境にみられるクロイトトンボ、アオモンイトトンボ、浅いゆるい流れの環境でみられるシオカラトンボ、ヒメモノアラガイ、サカマキガイなどもあります。

また、カワナ、サワガニがおり、底質が礫や砂礫質で水の流れが速いところがあると考えられます。

御幸大橋周辺



鳥

水辺にみられるアマサギ、チュウサギ、マガモ、バン、猛禽類のオオタカ、草地で良くみられるキジ、砂泥地で餌をとるケリ、ハマシギ、タカブシギ、タヒバリ、雑木林やヤブにすむカシラダカなどがみられます。

大和川の中で鳥類の種類が一番多く、さまざまな鳥がみられます。



キジ

低地でみられる地上性の鳥で雄は鮮やかな色



マガモ

大きい川や湖にすみ、冬には沿岸の海上でもみられる



カシラダカ

おもに地上にすみ、秋に北方から来て冬を越す渡り鳥



御幸大橋

クモ・昆虫

草地にみられるヒロバネカントン、ドウガネサルハムシ、タデサルゾウムシなどと、樹林で見られます。

ジグモ、コガネグモ、コムラサキなどの草食性の種と樹林性の種が両方ともみられます。

その他、シオカラトンボ、エンマコオロギ、クサヒバリ、スズムシ、ヒロバネカントン、オンパッター、アメンボ、ツチカメムシ、モンキチョウなどもあります。



モンキチョウ

草原・畑周辺で3~11月にみられる



シオカラトンボ

最も普通にみられるトンボで湿地などにすむ

魚

流れがゆるやかなため、ギンブナ、モツゴ、メダカなど止水からゆるやかな流れを好む純淡水魚が多くいます。

流れが速い瀬もあるため、オイカワ、カマツカナなどの流水域を好む純淡水魚もいますが、タイリクバラタナゴ、ブルーギルなどの外来魚もみられます。



メダカ

全国に分布し、水面近くで群れてえさを食べる



ギンブナ

川の中・下流にすみ底生動物を食べる

植物

堤防の土手は定期的に草刈りされる場所を好むセイバンモロコシやチガヤなどがみられます。

水際には湿った場所を好むオオイヌタデ、オオクサキビ、ヨシ、ツルヨシなどが、また高水敷にはおもにメヒシバ、エノコログサ、セイトカアワダチソウ、オギなどが多くみられます。



ツルヨシ

河原に生育し、株の根元から長いつるを伸ばす



セイトカアワダチソウ

荒地に生い茂り、春~秋に黄色い花が咲く

底生動物

川底が比較的細かい砂泥~泥で、流れのゆるい場所にみられるユスリカの昆虫類や、ミズミズ科、イトミズ科などのミズミズ類が多くいます。

また、水中に植物のある流れのゆるい環境にみられるクロイトトンボ、アオモンイトトンボ、ハグロトンボ、ギンヤンマ、浅い緩い流れのあるところでみられるシオカラトンボ、ヒメモノアラガイ、モノアラガイ、サカマキガイなどもあります。

小動物

(両生類、は虫類、ほ乳類)

河川敷の水たまりなどを好むヌマガエル、水深のある止水域を好むウシガエル、浅い池沼やゆるやかな川にすむクサガメ、川近くの湿地にすむ外来種のミシシッピーアカミガメがみられます。

草地にすむコウベ

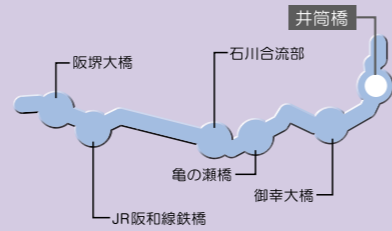
モグラ・ノウサギ・アカネズミ、水辺を好むイタチなどがいます。



アカネズミ

森林に生息し秋から春にかけて1、2回子を産む

井筒橋周辺



魚

流れがゆるやかなため、ギンブナ、モツゴなど止水からゆるやかな流れを好む純淡水魚も多くみられます。

流れが速い瀬もあるため、オイカワ、カマツカなどの流水域を好む純淡水魚もみられます。

タイリクバラタナゴ、ブルーギルなどの外来種もいます。



タイリクバラタナゴ
下流のよどみや浅い池にすむ外来魚



オイカワ
中・下流にすみ、ほぼ年中みられる

底生動物

川底が比較的細かい砂泥～泥で、流れのゆるいところにみられるユスリカの昆虫類や、ミズミズ科、イトミズ科などのミミズ類が多くいます。

また、水中に植物のある流れのゆるい環境にみられるクロイトトンボ、セスジイトトンボ、アオモンイトトンボ、コヤマトンボ、ギンヤンマや浅いゆるい流れの環境でみられるシオカラトンボ、ヒメモノアラガイ、サカマキガイなどもいます。

鳥

砂泥地で餌をとるケリ、タシギ、飛んでいる昆虫をとるツバメ、コシアカツバメがみられます。

浅い水辺にいるキセキレイ、ヨシなどの背の高い草に巣をつくるオオヨシキリ、オオジュリン、林にすむヒヨドリ、人の手に入っている環境にいるムクドリなどがみられます。



ヒヨドリ
木の多い村落や都市に多く、樹上で暮らす



ムクドリ
人家周辺・樹木の多いところに年中すみ

クモ・昆虫

草地にみられるカンタン、ミイデラゴミムシ、ダンダラテントウ、ハナアブなどがみられます。

ヤナギ類で見られるヤナギハムシ、湿った裸地でみられるコハンミョウなどもあります。

このほか、セスジイトトンボ、ギンヤンマ、ウスバキトンボ、ノシメトンボ、オオカマキリ、キリギリス、イトアメンボ、ヒメゲンゴロウ、セイヨウミツバチ、ハナアブ、キアゲハ、ベニシジミ、カタテハ、モンシロチョウなどがみられます。



オオカマキリ
最もよくみられるカマキリで主食は昆虫



キアゲハ
サナギで冬を越し、夏に発生する大型のチョウ



ノシメトンボ
夏から秋にかけてみられる。「のしめ模様」が名の由来

小動物

(両生類、は虫類、ほ乳類)

低い木や草の上で生活するアマガエル、河川敷の水たまりなどを好むヌマガエル、水深のある止水域を好むウシガエル、浅い池沼やゆるやかな川にすむクサガメ、川近くの湿地にすむ外来種のミシシッピーアカミミガメがみられます。

堤・草原・やぶなどにすむカナヘビ、人家の近い水辺に多くみられるアブラコウモリ、草地にすむコウベモグラ、キツネ、水辺を好むイタチなどがみられます。



コウベモグラ
年中みられ、草地の地中で昼夜問わず活動する



クサガメ
危険を感じると、臭いにおいを出す

植物

堤防の土手には定期的に草刈りされることを好むセイバンモロコシが群落をつくり、砂州などの水際には湿った場所を好むオオイヌタデやオオクサキビがみられます。

高水敷にはヨモギやメヒシバ、エノコログサ、クズ、セイタカヨシ、メダケがみられます。



クズ
堤防などでみられ、ほかの草の上に生い茂る



アキノエノコログサ
「ねこじゃらし」として知られ、夏～秋に花が咲く



井筒橋



河川水辺の国勢調査を二巡行なった結果を掲載しています

調査方法

魚	主として投網とタモ網。調査地点の状況に応じて刺網、延縄、魚カゴ、カニカゴなど
植物	植生分布調査(既往の植生図と航空写真などにより植生区分図を作成し、調査を実施)と植物相調査(目視によって植物の種を確認する方法)
鳥	ラインセンサス法(あらかじめ設定しておいたルート上を歩いて、一定の範囲内に出現する鳥類を姿や鳴き声により識別して種別個体数を数える)による任意観察

小動物 (両生類) (は虫類) (ほ乳類)	捕獲、目撃、聞き取り、フィールドサイン法(調査対象地域を詳細に観察して糞、足跡、食痕、巣、爪痕、モグラ塚、坑道等の生息痕跡を発見し、生息する動物種を確認する)
陸上昆虫	スウィーピング法(木や草などを捕虫網ですくい取る)、ライトトラップ法(灯火に集まってくる昆虫を採集)、ビットフォールトラップ法(容器にエサを入れ地面に埋めて落下した昆虫を採集)、任意採集法(素手や捕虫網などを用いて直接採集)
底生動物	コドラート(観察するとき使用する枠のこと)やサーバーネット(河川の底に設置、生物を採集する角形ネット)を用いた定量採集(一定範囲の生物の量を調べる)とハンドネットを用いた定性採集(いろいろな場所でどんな生物がいるか調べる)

国土交通省 近畿地方整備局 大和川河川事務所

〒583-0001 大阪府藤井寺市川北3丁目8番33号
TEL 072-971-1381(代)